

バストス週報

第1565号
昭和五十二年
五月十六日
月曜日発行
Diretor
Koiti Mori
Redator
Shoho
Miyatake
Rua 10 de
Novembro 882
C. Post. 112
Fone: 340
BASTOS
E. S. P.
Annual
Cr. #.
110.00
前金
Adiant.

後流

20

日系人と食べもの

吾々日系人はブラジルに住んでいるお蔭で食生活の幅は、ぐんと広いように思われる。普通ブラジル食といっているが、その中にはイタリアン・スペイン・ポルトガル・アフリカ人たちの料理もまじっている。ところが、そういうブラジル食の外、日本人が持ちこんで来た日本食なるものも随分口にするので、ずいぶん色々なものを味わっているわけである。吾々が在日当時ポルコの丸焼きなど見たことも味わったこともなかったが、ブラジルへ来た時から、カザメント(結核菌)のごちそうなどでよくお目にかかる。そういう油っこいものにはフェジョアーダなどと、とても日本では口に出来ないが、ここなら一週間に一度くらい食べると精力がつくような気がする。

○日系人だけの食品もある。サシミ、タタキ、みそ汁・すし、これらの肉どれかは日系人にすすめられて味をおぼえた伯人もあるが、自分で料理してまで食べないだろう。第一サシミなど鮭がうまいからといって醤油なしでは食べなからうし、添加物の醤油でも現今では専門に醸造する業者が何軒かあるので、いつでも入手できるが、お客さんは90%が日系人であろう。

その他のリ佃煮、コブ巻・スルメ、貝佃煮、ふりかけなど日系人の専門食が輸入難になったのをきかけに、ブラジルで製造をはじめたフアブリカがあり、けっこう売れているようである。

○材料はブラジルにあつて、日系人だけしか食べないものもある。塩辛、とろろ、こんにやく、かんぴよう、からすみ(ほうろの卵)とうふなどであるが、伯人でも豆腐など、料理の仕方によつて好むであろうが、冷奴などと生豆腐に醤油をぶっかけ、しうが味などになると、日本人専門食という可きだろう。

○日本人しか美味しくないものに海産、数の子がある。数年前までは高値を承知なり、数の子も入手できなかったが、もう輸入途絶でどうにもならぬ。海産はブラジルの海にはいないのだから、こいつばかりはなんぼ好きでも口に入らぬ。これこそ日本人専門の食品で、乾燥の「ほしなまこ」は日本から中国へ送られる。生を酢味で食べるのは日本人だけ、海の鰻は「このわた」と称し、塩辛にするが、天下の絶品である。冬季訪日すれば食べられるという。海産は冬期の海産に、ころころしているが、グロテスクな形で、どこか尻やら頭やら、目も口もない海虫のようだ、これを酢味で生で食べたのは誰かわからぬが、相当勇気のある人間だったろう。

毎度ありがとうございます

御宿泊と御食事に
御始礼披露宴とその御仕出しに
御家族づれの楽しいお食事には
日本料理とブラジル料理
毎木曜日は当店自慢のフェジョアーダ
バストス名物「鯉料理」

HOTEL PRIMAVERA

Rua Pres. Vargas - 271, C. Post. - 60, Fone: - 92 Bastos S.P.



ホテル森川

邦函六〇番
電話九二番

FLORA BASTOS

T. MORIMOTO & FILHOS LTDA.
Rua Duque de Caxias - 245, C. Post. 171, Fone 29, Bastos

森元苗木本舗

電話 二一九番

○エビはブラジルでも高級品で吾々の口へは入りにくい。ただフリックするより日本式のコムブらが一番うまいとされている。だれでもわかるが、料理人のように中々揚らない。

サンパウロでエビのてんぷらを伯人(高級)に食べさせて絶賛を伝えたのは、ホテル池田の御主人である。大鍋に油をたぎらせば、長い竹箸を使って、こちもをつけたエビを一尾ずつ泳がす。油がたぎっているから、つ、つとエビが前進する。そのエビ

万一の場合に備えて果樹園の造営
果樹園成功の鍵は良種の苗木を遊ぶ事が第一
苗木のことなら農林省公認の永い経験の
フロラバストス森元苗木本舗
に御相談下さい
蘭の苗は全伯の知名な苗木持約して居ります
から、お安く良い苗珍種、新種あります。
果樹園の外に花木、庭木、植林樹の苗など一切
揃って居ります。ツツジ、ツバキ、モクレン、モミジ、
モクセイ、ヒイラギ、金武用、鉢植用などを

に、こころも名につけて追いかけるようにババツとかけてやる。場がると叩にとり、割箸を添えて、見ていろお客さんに渡すわけだが、フーフー云いながらエビの天ぷらの立ち食いである。あんなにうまいので、もう一尾くれと、大抵二、三尾。ペロツと平らけるので、大満足だ。

こつという料理はメーグで行儀よく口をつぼめて食べるのでは、うまくない。立ち食いで、ビールのコップ片手にわいわい喋りながらやるのが本式である。すき焼でも一鍋を三四人で囲んで肉の半煮をとられまいと箸で押えたりするところが面白いのである。ところが昔佐野食堂の二階ですきやきをやり、一人がまじって来た。はじめ、うまい、うまいと盛んに頷張っていたが、味がからくなるといつて誰かが砂糖を入れたところが、件の伯人、それを見て、たまげてしまい、もう食べるのをやめてしまった。肉の味付けは塩とさめている伯人の味覚では、目の前で砂糖を入れられるのは、食欲が失せたのだらう。伯人を招く時はタシの中に砂糖を溶かしておいて少しずつ加えて煮つくりを防がねばならぬだらう。話はかわるが、ブラジルの海産物も海苔はつくのだから、昆布、わかめ、その他の海藻は生産せぬものであろうか。又、あわび、こごみ、などのような単貝類はいないのだらうか。鮭や鰯は北洋魚だから居らぬにしても、何か高々日系人の郷愁をいやくしてくれりょうな海産物がありそうなど、のぞむのはムリであらうか。

○ せいなく云えは際限もない話だが、吾々日本で育ったものは、日本の味覚にいつまでもつきまとわれ、無いものは仕方がないとあきらめもするが、どうかすると夢に見ることさえある。

先日聖市の池田ホテルからウナギ(鰻)の蒲焼を思送してもらって、さっそく温めてウナギを作って賞味したが、さすが鐵詰とは大ちがいだった。

○ 鰻(ウナギ)は日系人が養魚場で養殖しているものだぞうだ、やはり日本人にとことんまで仕事をするもんだと敬服してやまない。

糸 音

狸の説法 12

地獄極楽(ちごくごくらく)

「一体地獄とか極楽とかいうものは、ほんとにあるのじゃないか」と尋ねると、

「ぞりや、あると思う人にはあるし、ないと思う人にはない」といふ。

だが、此の答は無責任な答である、と非僧非俗の高森という親鸞學者が喝破している。どっちもつかぬ返答で、質問者を愚弄しているというのである。

○ 物の考え方には二通りある。その一つは存存論であって、実存するが故に、それを信じるのだ。否、信せずには馬鹿なものである。

もう一つは、観念論者の考え方だ。それは、自分がそう信ずるから、ものごとがあるのだ。

○ 実在するから信ずる。信ずるから実在する。さてどちらがほんとうだらうか。



INSTITUTO DE OFTALMOLOGIA DE TUPÃ

Clinica e Cirurgia de Olhos
Prescrição de óculos e lentes de contato

Dr. Isao Umino
Dr. Luiz Carlos Alves Negrão

Rua Carijós n.º 278 - TUPÃ - Fone: 2903

Dr. 海野 勲

電話二九〇三番
ロドリゴアリオ前

つきましては治療中の方、又診察希望の方、眼鏡の度の測定の方は、御遠方廻船をすかツパン市まで御足労をおかけい申し上げます

診療時間は、日曜祭日の外は午前八時から十二時まで、午後三時より六時まで

尚 INPS 交付致し
ます。

ツパン市カリジヨス街二七八番地

ツパン市ロドリゴアリオ前に診療所を開設しましたのでバストス出張が不可能になりました。

眼科専門医

観念の力をいかに軽視することはできぬ。なげなら、人間は万物の靈長だから、信じたり、考えたりする働きがあつて、物事と人間を結びつけるから、しかし信ずるから浄土があるのだ。信じないから地獄もないのだ、という観念流はゆるされない。信じようと信じまいと、浄土も地獄も実存するのだ、実存するが故に信ずる心が必然的にくるのだから、信ずることによって実存するような後天的なものではない。心の働きによって、その実在が左右されるような夢幻の如きものではないのである。

○ 三途の川があり、さしの川原があり、えんまの庁があり、そこを裁かれて地獄行きと浄土行きが決定する。地獄の苦しみ、浄土の極楽、だれも行つて見たものがあるわけではないが、その実在をたしかめてから信心獲得するわけではなく、信心のうちには、阿彌陀仏の実在を認め、地獄の実在も認めることと一さい含んでいるのが仏法である。

○ 浄土や地獄の実在は、この世に淨穢苦樂のある如く、来世にも最も幸福な世界と、三惡道のような悲惨な世界のあることは当然で、それを信じないとか、あると思うとかいう主観的な意識を超越して、信じていなければ、それをとやかく言うのは信心の決定していい証拠である。

ところで、新約聖書ルカ伝にもイエスが地獄と神の国の寓話で教を説いているところがある。

「あるところに富豪があつて、美衣美食にあき、貧乏者(せむし)に恵をたれることもなかった。

彼の門のところには真しうラザロが居て富豪の家から撥るパンの屑をひろって餌を獲ていた。だがその乞食の心には神かやどつていた。いつかうラザロは死んでアブラハムの懐に迎えられる。アブラハムはふところというのには、神の国のことである。そこで天使と共に楽しいくらしをしていく。

彼の紫衣を着た富豪も死んで葬られたが、彼は地獄に陥って苦しむ目にあっていた。ふと見上げると天国に今アブラハムとラザロの姿が見える。彼は思わず叫んだ。おやおわが先祖のアブラハムよ。どうかそのラザロを私の方へつかわして、その指の先きに水をつけて、私の唇をしめして下され。私にもう地獄の炎熱に焼けて死にそうでございます。折角だが、このこと、お前の居る地は深い溝があつて交通は出来ぬのだ。

そんならラザロを私の家へやって私の兄弟たちに、私の苦しみを知らせて、地獄に落ちないように注意してやって下さい。そのことならモーセの誠(主法)と書き者の教訓がある。それを学ばばよい。しかし、ラザロが私の家へ行って来て証人と打つてくれれば、ありがたんですけど、西、そりやめだ。モーセの立法が守られないようでは、たとえ死者が甦って証言、こまかぬだろう。

○何ともはや、さびしいものである。富豪は生きていろうち、思ふ存念なげたくをし、ラザロは脚の腫物を大に越のうれ、ボン膚にやつと生命をしのいだあわれな生活だった。それが神を信じたラザロは天国に入れられた。神にぞむいた富豪は地獄の焔に苦しむ、しかも一滴の水さえ恵んでもらえないのである。

○この寓話には、受協というものが無い。のっぴきからぬざりざりの線を表わしている。

仏法といひ、基督教といひ、実に人間の痛いとこ、即ち急所をついてゐる。新興宗教は日本だけでなく、世界各國に散布してゐるらしいが、日本の新興宗教などで感じることは、其仏の教えがあまりにも厳しく、一寸妥協をゆるさぬ厳肅さに怖れをなし、人間生活にもつと中とりを與へ、現世利益に重点を置いた教理を現代人に迎合してゐるようには見えないこともない。

○今回はまことにむずかしい問題を提供してしまひ、誠に申わけない。ま、たまにはこうしたせつは、詰つた問題と取り組んで見るのも、くすりになるかも知れぬ。

日本でもアブレゲールといわれる人達、ここでも二世、三世で信仰のうすい連中には、列強うけ入れてもらえぬ話だろう。

糸 音

参加できたことが、今度の企画の最大のミソである。

したがって四歳位の幼児から六十歳位のお爺さんヘルムムーダやシミール子の青年男女、家庭に引込んでしまつてゐる若い御婦人達と、参加者の顔振れもなかなか多彩である。それにも増して見物人もルアの両側にぎっしり朝から詰めていた。

参加者の割合も伯人の四に對し日系の一・男女別にする、男子二に對し女子が一、ざつとこんな割合ではなかつたか。母親に伴なわれた四歳五歳位の

サイクリング

梶山 双樹

サイクリングと云う言葉が当惑するか知らないが、市内を廻る。ハッセイオデビシヨクレッタと名付けられた自転車行楽が去る五月一日の若佐祭当日午前八時半から本田の道ちやんの車を先導で始まった。副市長のシャードス氏の掲げた花火を合図に市会議事堂の前を出発した。自転車の一団はルア、プ、ヴァルガスからツエネラール、オゾリオのブラ拓教糸会社の前を廻ってアベニダ、18 デジコニヨを上り、宮坂公園の角を曲って再びルア、プ、ヴァルガスを下る一周一キロ四百の距離を何周したものが、約一時間に亘る走行である。

数日前からテレビジョンで盛んに紹介して来たもので、サンパウロ市をはじめ、各市で自発的に相呼し一斉に若佐祭の当日を期して行われた様である。バストス市でも前日の四月三十日には市役所ではスピーチ付き宣伝カーで宣伝、これを務めていたが、其の甲斐あつたか、集った自転車白数六百台、驚く程の参加者で企画した市役所側も大変御満悦の体である。

副市長さん、ベレアドールの皆さん、文協からは崎田会長さんも見えて市会議事堂前は受付に大盛である。濱島は寄贈された物品を始め、新車モナルマ六百と云う豪華なものである。参加資格も老若男女は勿論年齢の差別も全くなく、総べての人が自由に(上段の左へつづく)

Organização Social de Luto ARegional

Rua Adhemar de Barros nº 295, Fone 361 Bastos E.S.P.

Residencia no local, faça Bastos crescer prestigioso - seu comercio sobre direção de aparecido feliano - ribeiro EX. Funionario da funeraria SÃO PEDRO, artigos funeraria prestação serviço. Flores. Coroas velas. Hossenko. Hihai e artigos para UMBANDO em geral

Atendimento pelo INPS e Furural. atende-se dia e noite

葬具店ノネリアサンペードロ

後藤さんのガソリンポストの向側で開業して居ります。高級棺の外花(生き花)花輪、ローソク、センコー、イハイ等仏式用一切揃って居ります。又昼夜受付て居ります。INPS 受付致します。電話で御用命下されば早速お届け致します。

バストス市 アデマル デ バー ロス街 295. Fone 361 (電話)

幼児の参加も珍らしく、なかむか微笑ましいものだったが、何と云っても青年少者の参加が群を抜いていた。近隣農家の子弟の参加者を除けば、殆んど市内の居住者で、農村からの参加者の少いのを不思議に思うのは認識不足で、十年前頃までは、自転車で登校する学生も多かったが、近年の農村の学生達は自家用車で登校するし、年少の学生は父兄が送迎している。時代の変遷が農村から参加者のなかつた要因と思われる。

此の度び全伯に行われたパッセイオ、デ、ピシヨグレットと呼ばれる此の催しの真意の程は聞き渡らしているが、近年高騰を続けている燃料の節約を暗に呼びかけているのではなからうか。

カソリンの昂騰は自動車業界を窮地に陥し入れてしまったが、アメリカでは自動車メーカーは、年々倍増の需要増大で、自動車産業の不況を尻目に吾が世の春を謳歌しているそうだが、ブラツルでも自転車の需要は日増しにピツチを挙げていると思われるが、自転車が如何に手軽で便利でも、自動車の代用には決してならぬが、近年とみに不足勝ちの足の運動と、燃料の節約の一石二鳥を懸けた事は、ほぼ間違いない。

今度の自転車行楽の企画は朝から市民の大歓迎を受けたカマラ(市議会)の大ヒットである 完
五月二日 記

奇稿

海の魅力

3
梶山 双樹

だがこの港はその美しい風景とは裏腹に浜全体を覆う魚の臭気には如何なる魚好きな者でも全く参りてしまう。流石に此の海には海水浴客らしい人達は一人も居らなかつた。

地図を見ると此処から未だサン、セバスチオン、カラガタツバ、ウバツバなどと呼ばれる日本人に馴染みの深い海岸が幾つも続いているのである。

- 魚臭き浜に金蠅平手打
- 大漁節唄う魚村に蠅生る

サントス

サンパウロからサントスに来ると風習ががうりと一変する。如何にも解放された海浜の町と云う感じだ。街を歩いてゐる人も車の中のものも、ベルムンダや海水着の人が多い。その故か美男も美女も皆小麦色の肌をしている。

○ 小麦色に程よく焼けしビキニ振り
ほぼ笑ましいのは老人夫婦が海水着をつつましやかに着て、手をつないで歩いてゐる事だ。店の中は海水着のまま買物も出来るし、パールの店は同じよう打服装で飲食もしている。海岸では若い男女が寝そべって、時々目のやり場に困る様な場面にも出会う。アパートや自宅から裸で其のまま海水浴に直行という自由さだ。

○ 松バラソル大の字に寝るビキニかな
王候、貴族の町と云われたリオデジヤネーロで

病中見舞御禮

私儀 今回入院加療中は親戚知友各位より物心両面の御配慮を辱うし、御考情の段誠にあり難く感謝に堪えませぬ。
お蔭様にて無事退院、病後保養の身ながら御愛念身に及びて有難く、取敢えず紙上御見舞の御礼申上げます。

ウニオン一区 小倉 毅
バストス産組 様
親戚知友各位 様

求む 外交員

今回事業拡張致しましたので店舗用の裝飾棚の製作をして好評を戴いて居りますが、この裝飾棚を各都市の店舗から注文を取って下さる外交員を至急に求めます。年令と経験の有無は問いませんが、日伯両語とも多少解する方を望みます。御希望の方は本人か御来訪下さい。
ルアブレシデンテ ヴアルカス街四二番地 電話三〇六番

吉川製作所

すらも、最近では生れたままに迫り様な、あらゆる姿態を闊歩することの出来る世の中とすれば、驚いたり羨したりする方が寧ろ何うかしているのかも知れない。

○ ビキニ行く天下の美女はバイマーマン
海浜の町サントスという地は、窮屈と云う言葉は見出せないようだ。籠から放れた小鳥の様に、厳しい人間の掟から解放されて若い男女も年寄も、すべての人が肩に手を掛け、腰に手を巻き、誰憚ることもなく、仲々と思ふ存分に、人間あからさまな自由を樂しむ事が出来ると言う事は、サントスと言う所は何んと素晴らしい所ではないか。

○ 頭だけ隠すビキニや汝日傘
而し如何に自由を謳歌することが出来るサントスと雖も、やはり自ら節度というものはある様だ。ホテルでは流石に正面玄関からはビキニや海水着姿で出入りせず、禁じられていた。エレベーターが裏と表にあつて、裏の路地しか出入りは許されない。店員も身勝手な軽装は、やはりしてない。女店員は、フルーザとサイア、或はバンタロン。レスタウランテのボーイさん達は、此の暑ささえも嫌なくタイをきろんと結んで客と応対している。明治は遠くならにけり、で、あまり免や角言っている、小父さん古いね、などとからかわれさうだから、此の辺で寝言は止めておこう。

今日は海水浴の疲を休めようと又一日を市内見物に費そうと、オルマダリーオ、ムニシパールに入園した。自然の山を残した市営の蘭公園である。

次号へつづく

南米の天地に志を展べし人

仲尾権四郎氏の巻

岸本立陽氏著

女十人に男三人の割合に男の減じた。バラクワイ国では勢い女が一生懸命働かなければならなくなつた。そんな理由でこの国の男共はノラリクラリして我が世の春を謳っていた。

或る時お寺の庭に美しく着飾つた娘達が百人程、手を繋いで円陣を作り、一人の男を真中に立たせ目隠しをしてゐる。やがて娘達は胸を下ドキさせながら、ぐるぐる円形に廻り始めた。目隠しをされた男は両手を振って一方の方に歩き出した。そして円陣の一人の娘に突き当るや男はその娘を両手で抱きしめた。やがてお坊さんが行って男の目隠しを取り外し、

「お前のために神様から与えられた妻はこの女であるぞよ。お前はこの女と永く仲睦まじく暮すのであるぞよ。神の定めたる此の二人に栄光あれ。アメン」とやっこしているのを見た。

所変れば品変る珍らしい結婚奇風である。「神の定めたる一人」はニコニコだが、富くじに当りそこねた九十九人の娘は又次の円陣の日まで待たねばならぬ青春の悩み多き悲劇である。

バラクワイからブラシルの国境に向つて旅して行くと、或る町の入口に兵隊達が強んに射撃をしてゐた。旅のつれづれに暫く歩を止めて見ていると、一向に射つた風でもないのさ。今度は標的の近くに寄つて行つて見ていた。不思議に的のらない。

「却つてこの方が人命を損傷しなくていいかも知れないなあ」と青空を向いて笑つてゐると、一人の下士官が射撃場の方から走つて来て、

「おい君、隊長がお呼びだ、さあ一緒に行くさう」
「何のためにお呼びでしょうか？」
「知らない。黙つて一緒に来ればいいのだ。」
下士官の態度は甚だ冷酷無情である。仲尾青年の胸に不吉な予感が浮んだ。

「スパイと疑んだのではないか？敵の戦闘能力や機密を探るスパイとして捕われたのだ……誰も知らない異郷の果に幽閉銃殺……あ、君子危きに近寄るはなかつた」と脅しに受かれる羊の如く隊長の前に行つて直立不動の姿勢で一礼した。隊長は厳かな口調で、

「お前は何所の国の人間であるか？」
「日本人であります」

「先刻から何を見ていたのであるか？」
「はい私はブラシルに行く途中であります。が、鉄砲射撃が好きなのです。兵士達の射撃を見ていました。」

「兵士の射撃を見て、どう思つたか？」
「さう困つた。一発も射撃を上手だと羨めるわけにはゆかない。そればかりで他国の兵隊に向つて下手だと云えば侮辱したことになる。どう返事をしたものがと弱り果てたか、或る程度率直に言つてやれ……と腹を決めて、

「弾丸が標的の上の方に当たつてゐる所を見ると、着弾距離の測定が間違つてゐる様に思ひます。此処からですと自測六百米位に思ひますが、兵士の標準は五百米か五百五十米にしてゐるのではないでしようか？」

「う、む如何にも成る程……」
「第二に射撃の姿勢がよくありません。只今の伏射の場合には左手の肘をもちと内側にかい込んで、銃床（銃の台座）を強く肩に押し当てると銃が動揺しませんから、命中率もよくなります」

「うむ、成程、たしかにさうだ」
「第三に敵と向いあつて射ちあう場合は精神的訓練が一番大切であります。終り」
隊長は深く考え込んで言葉がない。隊長の面上にありありと感動の色が浮かび、無言のままに首肯していた。

「有難う日本人、君一つ模範を示して撃つて見せてくれ」
仲尾青年は軍隊時代、射撃の名手として知られ、大隊射撃、聯隊射撃ではいつも満状を演つて来ては中隊の名を揚げ、中隊長を悦ばせていたので、射撃では自信たつてぶで銃を執つた。日本の軍隊時代の要領で、先ず標的に向つて直立不動の姿勢をとリ、立ち撃ちの構えをし、五発の装弾をガクマンと詰め、六百米の照尺にして射つた。五発のうち三発命中するや、隊長は感嘆の声を放ち、

「いや、すばらしい、感嘆にこれは神技だ。君は目で軍隊教育を受けたのか？」
「日本で軍隊教育を受けました」 以下次回へ

浪曲の夕に御招待

日時 来る五月二十二日(第百廿四回)夜七時

場所 二バストス綜合会館

演題 大尉の娘 中野光燕

父帰る 京山月若

ある日の乃木將軍 赤石春若

出世豆腐 富士寿々夢

リンス市の婦人二名の舞踊(おどり)

寸劇 バストスの藤川さん

御注意

- 1 老人席は舞台近くに用意してあります。
 - 2 付添人は老人と同席でよろしい。
 - 3 近所の老人達に知らせてあげて下さい。
 - 4 一般の方で浪曲好きの方は入場して下さい。但し席は老人のうしろです。御花は自由のこと。
- 入場無料

バストス明老会

リンス浪曲会は、聖市名人会に次いでブラシルでは一二を争う有名な浪曲会に付き御期待下さい。

各 位

蒼氓

著者 石川達三

17

収容所前から車に乗った村松、小水らの耳に又号外の鈴の音が聞こえて来た。

「何の号外だろう、ロンドン会議かねえ」と村松。

「どうでしょうね、今朝の新聞を見ましたか？」

メリカが補助船問題で譲歩してますよ」

「ふむ、何にしてもうるさい世の中だな。僕も嫌だ。軍縮なんかに興味がないよ」

「昨日鶴見祐輔が引っぱられましたね、大阪で。知っていますか？」

「ほう、何で？」

「明政会事件ですよ、それから佐竹三吾も引っぱられましたよ。ね、一昨日かしら」

「ああ、みんな引っぱられちゃいいさ。かもうもんか」と村松は自棄の様に言った。「その中僕も何か悪い事をしてやるから」としては、はっと笑った。

「そうだよ君、ねえ、少々悪いことをしても金を儲けた奴の方が結局利巧だよ。今の世では」

小水も一緒に笑った。笑った顔の前を、緑色の洋服を着たお夏の横顔がすっと後へ流れて行った。

「神戸なんてつまらない所だなあ」と村松が言った。

「収容所もつまらなかつた」

「どうですかねえ」と小水はうわの空で答えた。あの女の横顔は北風に吹かれて赤くなっていた、と思っ

た。車は三ノ宮駅のガードを滑った。ゴーツと頭の上を汽車が響を立てて過ぎた。

お夏は同室の一群に混って歩いてきた。風呂敷抱みを持った手がかじかんで、帽子が無いので風に乱される後れ毛がしきりに顔に流れた。姫川さんに宛てた手紙をポケットに入れていた。途中で出そうと思っていた。けれども人目が多かつた。同室の人達が前後にいた。そして弟がちつとも離れてくれない。(三年たつたら帰ります。それまでどうか待ってたもれ)けれどもその後こう書いた。(三年たつても帰らなければほかの人をお嫁に貰って下さい。私はあきらめます。お夏にはそれがせい一杯の言葉であった。トラックがまた追い抜けて行った。孫市が笑いながら姉に言った。

「見れ姉ちゃん、あの自動車。俺達の行李あつたぞ。な」

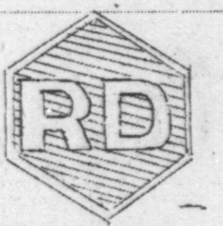
お夏は段々伏目になって行った。そして心の底から酒々として湧き上る郷里の村の懐かしさに眼もくらむような気持ちであった。心無い表原さんの女房がいつの間にか横に並んで来て声をかけた。

「下駄の方が何ほか歩くにええなしゃ、かかとが擦れて、歩かれたもんでねえ」

又赤いポストの前を通り過ぎてしまった。お夏は段々に、手紙を出す気が無くなつて行った。諦めが、溜息と共にこの女の心を満たして行った。

第三突堤は風である。飄々と吹く浅春の風である。この冷たい海風の中に黄色いマストを立てて、マ

ストからマストへ万国旗のはためく上に、大坂商船の(大)の字の旗と、黄と緑のブラシル共和国旗と



これがラツソンの特徴
高度の経済効率
嚴重なる品質管理
安定度の高い配合

皆さんの鶏の健康を守りより多量に利潤を産み出す飼料として、ラツソンのラツソ株式会社ではあらゆる技術を経験して常に改良が続けられて居ります。

ラツソ・ラツソ

パウリスタ地方総代理店

前山商店飼料部

養鶏飼料販売部各員

- 佐藤 豊
- 木口 常治
- 藤武 良郎

右の販売員が参考の請は何かよろしく御願いたします

が真横に流れていた。

白い帯線を巻いた黒い船腹をがっしりと水の上に浮べたこの大汽船の船首には、日字と英字とでこう書いてある。(へら、ふうたん) The Beta Mark

ウインチのアームが風を切って、突堤からデッキへ移民達の大荷物をつり上げる。その下を滑って移民達はタラップのあたりに集り、簡単なバスボートの査定をして貰う。突堤の上は身動きもならない程の人数で、果物、サイダー、ティー等を売る男達がその群の間を縫うて走り廻っている。査定を終つた移民は、もう船を下りてはならないと言われて女々とタラップを上ってデッキに立つ。もう日本の土を踏むことは出来なくなつたのだ。次の碇泊地はホンコンである。

船に入った移民達は手荷物を担いで、デッキを驚く迷った後に、や々と降り口を見つけて、与えられた室への階段を下りる。すると大きな室の中にカーボラングが五つ六つ点いていて、室の周囲に添うて鳥籠のような鉄格子がびっしりと二段に幾列にもつらえてある。是かベッドである。室は四つに分れていて、一室に百八十人乃至二百人である。

室とは言うがメン、デッキの下の船艙で、上下左右は鉄板張り、両舷の丸窓が五つづつ。室の中央はもう一段下にある船艙の開口で、この開口の蓋の上が移民達の食堂でもあり娯楽室でもあり喫煙室ともなる。

この室の中に入って来るなり大泉さんは、「ほう、こりやまるで倉庫だ」と言った。けれども始めて見る巨船の内部の奇怪さに圧倒されて、幻惑

されて、これから先四十五日間を此処で寝起きするのだという明確な認識が出来ない。ふとそれを云い出す者があつても、収容所の食事と同じように、天皇陛下のお金で旅行することの有難さに気がついてすぐ沈黙してしまふ。

ところで、今度は自分の番号のベッドを探し出すのが大変だ。向しろ二百の中から探すのだ。だが幸にも大泉さん連同室の連中はひと所に集つていた。ベッドが見つかると手廻りのものをその辺に片づけて、はっとしてとなり近所をかえり見る。それから階段や廊下を行き来して船の住心地を考えて見る。勝田さん達の一家は中央部の特三等の小室で、再渡航の堀内さんと同居であつた。

これは企業移民の別扱である。そして小水助監督も同じように隣室に拠つた。これらの室は船の動揺も少しし、ベッドも鉄格子ではなく木の柙がある。そして村松監督は船尾に向いた見晴しの良い一等室で洋服軍着もあれば、鏡付きの洗面台もある。白い室で、ベルを押せば、室付きのボーイが御用を伺いに加けつれる。彼は会社関係や友人の見送りや八人のために紅茶を取り寄せて、お別れの言葉を浴びたり握手したりしている。

栄養不良の嬰兒は船に乗ると同時に船尾の病室に移された。船医は一目見るなり呆れるよりも腹を立ててしまった。そしてふんぶんして室を出ると、一等船客のアメリカ婦人に何かお愛想を喋っている事務長に向つてその事を報告して言った。「僕はあの子供の命だけは保証出来ませんからな。こんなべらぼうな話はない！」

「困るなあ」と事務長は苦笑した。子供に困るよりも怒っている船医に困つたようであつた。第一の銅鑼が鳴つた。午後三時半である。銅鑼を聞くと室に居た移民達はどよどよとデッキに上つて来た。一本の赤いテープが誰かの手から突堤に向つてするすると伸びる。それを合図に我も我もと、無数のテープが紫に黄に縦横に乱れ飛んだ。海風は飄々と船に突き当たり、テープの綱目をさつと煽り上げる。突堤には見送りの小學生が三、四百人も整列していた。彼らは港に近い学校の生徒たちで、移民船が出る度毎に交替で見送りに来るのである。移民船の子供達は大きな船が出て行くのを見るのが嬉しさに、移民の板けるテープを争つて拾つた。大抵の移民には親戚知己の見送りというものは殆んどないのだ。お夏は混雑にまぎれて弟から離れると、突堤とは反対側のデッキに独りで歩いて行った。ここには廊下に迷つた移民が時折り来るほかは、白服のボーイが忙かしそうにするように過ぎ行くばかりである。ランチが煙の輪を吐いて走っている。煙がひらひらと紙屑の様に水の上を飛んでいる。ランチの通つたあとには白い一筋の道が水の上に残つている。この船の横腹には大きな穴があいていて水が漕のようにどうどうと落ちてくる。

お夏はポケットから堀川さんへの手紙を取り出した。遂々出さなければ手紙、そして今ではもう出しても何にもならぬと思つた手紙である。一年たつたらきつと帰つてくると、嘘の約束をしたままで行つて了おう。どうせ三年も待つて貰える筈もないのだから……向うのデッキのどよめきが手に取るよ

うに聞こえて来る。袖に金筋の飾りをつけた海軍士官のような人が通り過ぎた。お夏は手紙を封筒のまま、破りもせずにはりから投じた。手紙は北風にあらわれて青くしらひらと舞つて油の浮いた水の上に落ちた。堀川栄治様、佐藤なつより、左様なら。帽子がないので髪の後れ毛が風になぶられてはらはらと頬を流れた。

「おんおんと第二の銅鑼が鳴りはじめた。それは廊下を廻りながらこちらへも近づいて来た。彼女は銅鑼に追われながら皆の方へ戻つて行った。そのこのデッキはもう通る事も出来ぬほど人で一杯になつていた。白服のボーイが群をかき分けながら叫んで行く。「見送りの方は早く降りて下さい、早く降りて下さい！」

万歳の合唱が起る。怒涛のような万歳である。何を叫んでいろのか分らないような叫びである。舷側と突堤との間のテープの綱は刻々に細かい綱目になつて行つた。門馬さんの婆さんは息子達に守られて立っていた。勝治が一本のテープを舟に持たせたけれども母は一向に浮き立たなかつた。勝田さんの息子達はなるべくテープを遠くへ投げようと言うので、ヤツヤツと叫んでおはれつて投げていた。

楽隊が鳴りはじめた。すると突堤にびっしりと並んだ小學生が、今まで巻いていた小旗を一斉にひらいた。日章旗であつた。それを打振り打ち振り楽隊に合せて歌い出した。行けや同胞海越えて

お知らせ

西式健康法の座談会

研究会並びに実演

今回サンパウロ西会より

塩沢弘理事(西勝造先生)来伯の際直接受講

岡村幸雄書記(子ウチ症を西式健康法で全治された方)

井口吉三郎氏(元井口種鶏場主)

井口氏は現在老人ホーム(養老院)を自費(私財)にて建築中、既に七、八名の老人を世話して居られ、老人に西式健康法を指導して居られる方です

○会員の皆様は勿論一般の方、特に老人の方の御来場を御待し居ります。何卒御気軽

においで下さい。(会費不要)

期日 五月二十一日(土曜)午後七時三十分
場所 バスト又総合会館会議室

主催 バスト又西会支部
後援 バスト又明老会

南の国やブラジルの……
未開の雷を拓くべき

「これぞ雄々しき開拓者……」
飄々と鳴る海風の中を、歌聲は美しい大きなよめきとなつて鉄の船腹を上ってくる。すると移民遠は一斉に万歳を叫びだす。ただ無茶苦茶に叫びだす。その耳を聳する叫の中に混って弟の叫声を聞

いた。
「ねえしゃん、此処さ来え」と、そして弟は姉を人波を押し分けてずつと前へ押し出してくれた。弟は興奮して、姉の耳元で大きな声を言った。

「姉しゃん、これ投げれ」そう言つて真赤なテーパーを渡してくれる。然し姉はためらつて投げようとしてない。弟がまた、投げれ、投げれ、と催促する。

「どこさ投げる？」と、お夏は小声で言った。
「どこさお夏もねえ、あつちの方さ投げればええんだ。どこでもええ、日本さ投げれ日本さ」

弟ははッはッと笑つた。お夏は投げた。投げたけれどもテーパーは網目の間に落ちてからまつて、その先は誰か拾つてくれたかも知れない。

「ボーイ達が四五人でタラップを外してさつた。そしてカキヤンと船門を開じた。
「まんたある、これも投げれ」弟は紫色のテーパーをくれる。お夏はそれも投げた。左様なら、堀川さん……」

第三銅鑼が鳴つた。午後四時。
突堤につながれて太いロープが解かれた。船は自由になつた。スクリーナーが廻り始めた。船尾に白い泡が一杯に浮きはじめた。小学生達は今はカ一杯に歌つている。デッキは発狂した持万歳である。

テーパーの網は今では一枚の板の様に堅く編れてしまつて、自分のテーパーの行方も分らない。理窟屋の賭田さんも両手を挙げて幾度か万歳を叫んだ。その息子達はもう声が潤れかけた。頭一杯にまだ網を

をした堀内さんがよく動かない。網を動かして勝田さんに言った。
「もうこれで日本へ帰らあてもええ思やあ、わしはのひのひしすわい。本当さな。どうも日本は、ず

ど息が詰るようなとお見せえ」
隣りに居る孫市はちうりとこの端の男を見た。日本を嫌つている男、怪しからぬ男と思つた。と、不意に、検査を逃げて行く自分を思う。いや、俺は決して逃げて行くのではないと思つた。けれどもどうして

も不忠なように思われ苦しくなつてくる。
気がつくくと、突堤と船との間が開いて来たようないや、そこにとどろりと油の浮いた水面がひろかりはじめた。

「何んだ！もう動いてるのか」と誰かが叫ぶ。すると万歳が狂騒な調子を帯びてくる。テーパーが風に吹かれながら伸びはしめる。延び切つたものから次々と切れて行く。網目が引き裂かれて行く。北風に

に帆を画いて、あまりに頼り無く切れてしまふ。最後のテーパーが切れた時、船はもう二十間ばかり離れていて、間が遠くなる。万歳の声を限りなく離れる。喉自慢の三浦さんが声を潤らして叫んでいた。

喜びでもなく、祝福でもなく、ただ感動を絶叫する万歳であった。そして頬には幾筋も涙が流れていた。船は岸を離れると方角をかえはじめた。すると移民たちはそれにつれてデッキの船尾の方に廻りなが

ら叫び続けた。岸の日章旗は紅白の波のようになつて、歌はまた大きな響きになつて水を渡つて来た。その内に移民達の心のなかで、万歳は次第に悲痛の調子を帯びて甲高くなつて来た。

すると一層涙が流れはじめた。見送りのランチが二隻走つて来た。船尾の空では鳴り響きはじめた。足許のデッキにエンシンの響きがたつた。響きはじめた。自分の叫ぶ万歳の悲痛な調子にふと気がつ

いて大泉さんが叫びをやめた。すると隣りの妻原さんも沈黙して、そつと眼頭を扶つた。そして次々に万歳の声がかさみはじめた。手の中には誰かがテーパーの切れ端を握つてゐる。

万歳の叫びをやめた孫市はほつと大きな吐息をついた。心から大きな吐息であった。もうこれでつかまることわかない。兵隊に行かなくても済むのだ。彼ははつと安心して身のまわりを見廻わした。姉が居なかつた。仲ひ上つてその迎を控したが姉はやけり居なかつた。彼は人混みを分けて歩き出した。男達の半分はまだ万歳を叫んでいた。彼は先ず大泉さんを見つけた。

Organização Rio Branco S.C.

ADVOCACIA CONTABILIDADE DESPACHOS

法律のことなら何でもお気軽に
御相談下さい
農村シンシカット
バストス市役所
顧問弁護士

民法・刑法・労働法
会計事務一切
テスパシヨス、

保険（生命保険・自動車保険）
農家保険・農家の帳簿、その他
帰化手続、身分証明

石川法律会計事務所

プリンテンテヴァルガス街一八九番地
C. P. 一三〇
電話 二八〇番
電話 一〇五番

「監督さん、姉しゃん見ねかつたですか？」
「さあ、僕は今まで上の、一等に居たんぞね、見ませんでしたよ」と小水は言った。
孫市は気がかりになつて来た。そして、姉しゃんと

「姉しゃん見ねかつたしかな？」
「知んねえなし」と彼は言った。彼はまた人混みを分けて行つた。そして今度は小水君が村松監督と話し

て居るのを見た。
「監督さん、姉しゃん見ねかつたですか？」
「さあ、僕は今まで上の、一等に居たんぞね、見ませんでしたよ」と小水は言った。

孫市は気がかりになつて来た。そして、姉しゃんと

「姉しゃん見ねかつたしかな？」
「知んねえなし」と彼は言った。彼はまた人混みを分けて行つた。そして今度は小水君が村松監督と話し

て居るのを見た。
「監督さん、姉しゃん見ねかつたですか？」
「さあ、僕は今まで上の、一等に居たんぞね、見ませんでしたよ」と小水は言った。

孫市は気がかりになつて来た。そして、姉しゃんと

「姉しゃん見ねかつたしかな？」
「知んねえなし」と彼は言った。彼はまた人混みを分けて行つた。そして今度は小水君が村松監督と話し

て居るのを見た。
「監督さん、姉しゃん見ねかつたですか？」
「さあ、僕は今まで上の、一等に居たんぞね、見ませんでしたよ」と小水は言った。

孫市は気がかりになつて来た。そして、姉しゃんと

呼んで見た。遠くなつた突堤からは風の様な歌声がこつちの万歳の絶え間絶間に聞えてきた。不意に船全体をびりびりと震わせて汽笛が鳴りわたつた。鳴り止むと遠くからほうと木霊が返つて来た。「義三さん姉しゃん見ねかたか？」

門馬義三は胸のカトリックのメダルを光らせて孫市をふり向いた。「知んねえ。さっきお前の傍に居たべ」彼は駆け足になつた。人混を抜けて廊下の突きあたりまで行く

と一足どびに階段を駆け降りた。「姉しゃん」室の中にはカーボン、ランプが赤々とついでいて

人気が無かつた。がらんとした室の四方に鳥籠のような鉄格子のベッドが冷ややかに重っているばかりであつた。

「姉しゃん」彼は自分らに当てられたベッドに駆け寄つて見た。お夏はそのベッドの蔭に、半ば床に倒れ、上半身を行季の上の倒して、おいおいと声をあげて泣いていた。

「姉しゃん」弟ははらわたを吐き出すように叫んで姉の肩をぐつと掴んだ。無性に暖立たしく悲しかった。涙がどつと溢れて来た。

床の鉄板を震わせてエンジン音がダダダツタと響いてきた。丸窓の外の舷側に碎ける波音がざざと高く聞えて来た。速力が加わつたのだ。

つづく

長野県人会だより

第五十九号 一九三七年五月一日号より
森元 武雄 氏 提供

△ 俳人 小林一茶の子孫が討議(三月二十八日)

信濃町柏原の小林弥寿保さん(五四)は一茶の六代目の子孫で、二十六日行われた討議で二十六人中十四番でめでたく当選。現在一茶旧家の隣りに住み、一茶屋の屋号で豆腐屋及び土産物店を経営。

△ 現代っ子の経費(三月三十日)

保険会社の調査によれば、出産から大学卒業まで現代っ子一人を育てる費用は一人当たり平均でざつと一〇四九万円かかる。大学まで二十一年間の食費が全体の三八・一%、教育費が二八・一%となつて

いる。

△ 千マリ親バカぶり(四月八日)

と日市民会館で行われた長野市制八十周年式典で来賓席の西沢知事の上席で自治省財政局調整室長の小林実氏が自治省小川大臣の代理としてすわつた。来賓祝辞も小林氏がトツプ。実は小林氏は知事の娘ムコ。「ムコの方が出世しまして……」でもうれし

しものだと。

△ 町内の外国人と昼食会(四月八日)

軽井沢町で日国籍外人会昼食会が開催された。軽井沢婦人クリスチャン、グループが中心となり、外国婦人二〇名、日本側七〇名で、歌を歌つたり盛大で有意義であつた。



大作名映画紹介 来る五月二十日・二十三日上映 東宝作品「二〇〇〇キロの罌」

鹿野島で観光業社の若き社長・加藤啓介は、裏日本を征服しようとして出発しようとしたとき、義父の正造に、稚内の丸仙アパ

ート社長に贈るギョランC.T.Oスホーツカーの贈送を頼まれる。その前夜、何故か激しくいどむ妻麻知子……そして、「出発はよせ

と此の男の電話……何かが啓介を待ちかまえているようだ。しかし啓介はどん釘車には気に止めず鹿野島から北海道稚内まで三千キロの

縦断ドライブに出発した。先ず啓介の前に現われたのは、人に追われて着のみ着のまま逃げたという黒村雪絵……。そして啓介の車を追つて来る高級車「ホネア」。その運転手はなんと、啓介の経

營するホテル南山の地下薩摩料理の女主人首根崎朝子だつた。由布院の街でお神楽の踊りを見た日、夕路に海けだむ様に通り過ぎる妻の姿を見て驚く。その夜啓介は、教杖の一方田札を持ち、秘

にどこかに電話する雪絵に疑問を持つ。そして雪絵は危険な女だと思の男からの電話。案の定雪絵は黒川と吉野男に騙され、啓介の行

の先きを連絡していたスパイだつた。黒川とは何者なのだ。スパイと知つても優しい雪絵に啓介はひかれてゆき、雪絵も啓介

の思つしに燃え……夜の夜は熱い夜だつた。松江でも啓介は、鹿野島にいる妻の妻麻知子の姿を見かける。そんな悪運な……啓介の身聞違ひなのだろうか。鹿野島に電話して

みると麻知子は確かに鹿野島にいる。そして丹波の山道で大型トラックが啓介の車を襲う。見えない敵はとうとう攻撃を開始して来た。そして鹿野島では雪絵をさらわれてしまう。啓介は必死に雪絵を

捜した。しかし、雪絵は死体となつて発見される。――能登半島―― 走る啓介の心は日本海の荒波のごとく暗かつた。そして次に現われたのは、断崖から身を投げようとしている女！

椿奈美子だつた。彼女を助けた啓介は意外な事案を知る。奈美子は、雪絵を殺したと思われる黒川こと君塚にふられたのだ。そして彼は、義父の正造の白十字デパートに勤めていたのだと云

う。義父が何か関係しているのだろうか……そして、又もや奈美子はさうわれた。最上川に死体となつて浮ぶ。君塚の相手の名は、「あ……」だと言ひ残して……朝子なのだろうか。

再び啓介を襲うダンゴラー。啓介は気が尽きていた。危険の真只中で啓介は倒れてしまう。十和田湖畔――妻の介抱で気がつき、或女が啓介を運び妻麻知子に電話をしたという。啓介は又君塚から乗

つたフェリには、黒幕かも知れない朝子がいた。ところが朝子は意外な人物の名前を教える……啓介は大きなショックを受ける。まさか、何を信じたらしいのか。翌朝の夜……啓介は朝子を信じた。朝

日川では朝子が消えた。又殺される。鹿野島から三千キロ、そして、そこで啓介を待ち受けていたものは……

マッサンズタ

の大家、皆様の要望に因りて再び東植下します。奥田稔先生再度の施療

来る五月二十日・二十一日・二十二日の三日間
バストスへ来ていただくことになりました。今月七時から三日間です。慢性的の痛みのある方は是非先生の治療をお試め下さい。特に慢性の肩のこり・頭痛・腰痛・めまい、不眠症・ぜんそくなどの方は効果顕著です。治療所は、今回も同じく

ホテルうさみ

ロードビアリオリ

Auto Mecanica BASCAR LTDA.

Rua Adhemar de Barros:-295. Fone:-156 Bastos E.S.P.

Agora em Bastos há um oficina que você esperava. com mecanicos especializados em VOLKS WAGEN e CORCEL. rebifica de motores com assistencia preços modico a Auto mecanica BASCAR LTDA. e todo que você esperava de uma Auto mecanica AGRADecemos A SUA PREFERENCIA.



アウト
オウ
オウ

皆さんお持かねの
ホルクスワゲン車
並みにコルベル車専門
のオフイシーナを当バストア
市に特設開業して居ります
最高技術のテクニカが皆様の
愛車を完全修理と調整で最
高の性能を発揮することが出
来ます。修理費は奉仕的安価
で御用命を願って居ります

ルアアテマルデパロスニ九五番地
アウトメカニカ
バスカル商会
電話 一五四番

NOSSA RELOJOARIA

TAKAMI SHIBATA Rua Adhemar de Barros:-213 Fone:-154 Bastos

記念品とお祝いの贈物
は当店でお選び下さい。
カラーテレビジョン
色彩の美しさと映像の鮮鋭さ一言のよき、
ステレオグラブドール
立体音響のスパラランサ、演奏会現場そのまま
されます。銀立向立休でいかですか。
ポケット用電子計算機
ソロパンのかわりに簡単にどんな計算でも即座に
結婚祝のプレゼント
お祝いに色々なものを揃えて居ります
腕巻時計、壁掛時計
おみやげ用品色々

ルアアテマルデパロス街ニ一三番地
レローショアリアタカミ
柴田時計店
電話 一五四番

Aviso de Cine Bastos

五月十五日(日) 又々冬午後二時半 夜九時半 十一日(月) 八時 東宝マンガまつり
天竺色 パンダ・コパンダ アタック No.1

五月二十日(金) 八時 二十一日(土) 九時半 監督 山根成之
松竹 どうせいしだい 由美かおる 入川保則
総天 同棲時代 伸 雅美 安田 伸
然色 大信田礼子 穂積隆信

五月二十二日(日) 九時半 二十三日(月) 八時 監督 福田 純
東宝 SOMBRÁ NA AUTO-ESTRADA わな 田宮二郎 谷口 香 永井智雄
然天 3000キロの罠 浜 美枝 米岡雅子 高森 玄
加賀まり子 戸部夕子 三国連太郎

五月二十一日(金) 八時 二十八日(土) 九時半 監督 原作 山田洋治
松竹 宝塚忘れな草 渥美 清 三崎千恵子
然色 男はつらいよ 伴淳三郎 松村達夫 笠智衆
前田 吟 浅岡るり子

五月二十九日(日) 九時半 三十日(月) 八時 監督 小谷永靖
東宝 ザ・ゴキブリ ゴキブリ刑事 渡 哲也 田波哲郎
然天 第二弾 沖 雅也 峰岸隆之助
本田みち子

五月五日(月) 九時半 六日(月) 八時 監督 中島貞夫
然天 暴カ金脈 松方弘樹 田波哲郎
池 玲子 若山富三郎
大瀬英治

組銀暴カにバックにキョハク、密殺人の手法、大資本のクラクリにくらいついた...

愛する...とが美しいことはすぐ終る...愛すること...傷つくこと、愛すること...何時までも美しくないのは...